

湘南国際村アカデミア「カフェ・インテグラル」

中国少数民族文化の独自性と普遍性

・**モン人の母系社会**が
現代に問いかけるもの
・**チベットの基層文化: ポン教**

2012/10/27(土) 13:30~(受付開始13:00~)
湘南国際村センター(葉山町) 1階・展示室

講師: 金 龍哲(神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部長・教授)

長野泰彦(総合研究大学院大学 理事・副学長/国立民族学博物館名誉教授)

司会: 林 信濃(公益財団法人地球環境戦略研究機関自然資源管理グループ適応チーム副ディレクター)

参加費: 800円(茶菓とインタビュー集『知をめぐる対話vol.2』つき)

定員: 40名(応募多数の場合、抽選)申込締切10月19日(金)

主催: 公益財団法人かながわ国際交流財団

協力: 神奈川県立保健福祉大学、総合研究大学院大学、公益財団法人地球環境戦略研究機関

後援: 葉山町

【お申込み・お問合せ】

(公財)かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター (担当: 清水) academia@kif.ac

TEL: 046-855-1821 FAX: 046-858-1210



モン人の女の子は13歳を迎えると成人式を行う



海拔3,000m級の山々が峰を並べる高原地帯に広がる滹沽湖



ボン教のマンダラ



ナンシー寺のチョルテン



ナンシー寺の戒僧

中国少数民族文化の独自性と普遍性 モン人の母系社会が現代に問いかけるもの／チベットの基層文化：ボン教

便利な生活と引き換えに、画一的な生活様式をもたらすグローバリゼーションの潮流——
そして、その潮流にさらされている少数民族——

カフェ・インテグラルでは、「モン人の母系社会」と「チベットの基層文化であるボン教」という2つの中国少数民族文化を取り上げ、カフェ・スタイルで講師の方々のお話を聞きつつ、失われつつある民族の多様性や地域の独自性の中から、現代に生きる私たちは、どのような示唆を得ることができるのかを、考えます。

プ ロ グ ラ ム

| | |
|-------------------|--|
| 開 会 | 13:30～（受付開始 13:00～） 【バス】返子駅発12:53、京急汐入駅発12:47 |
| 趣 旨 説 明 | 13:35～13:45 司会：林 信濃（地球環境戦略研究機関 自然資源管理グループ適応チーム副ディレクター） |
| セッション1 | 13:45～14:30 レクチャー30分＋質疑応答15分 「モン人の母系社会が現代に問いかけるもの」 講師：金 龍哲（神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部長・教授） |
| 【休 憩】 14:30～14:40 | |
| セッション2 | 14:40～15:25 レクチャー30分＋質疑応答15分 「チベットの基層文化：ボン教」 講師：長野 泰彦（総合研究大学院大学 理事・副学長） |
| ダイアログ | 15:30～16:00 |
| 閉 会 | 16:00 【バス】返子駅行き16:22、京急汐入駅行き16:41 |



「カフェ・インテグラル」とは？

知的機関の集積地である湘南国際村の多様な分野の研究者を講師に招き、人間や社会の営みについてその現状と将来像を見通す多角的・統合的な視点を養うための対話型のセミナーです。今回は「中国少数民族の文化」が共通するテーマで、プログラムの前半ではお二人の講師の方々にお話しいただきます。後半は、お茶とお菓子を楽しみながら、カフェ・スタイルで参加者のみなさんと対話を深めていきます。

参加者特典

多分野にわたる研究者の方々のインタビュー集『知をめぐる対話vol.2』（2011年2月発行）を差し上げます。※所属・役職名はインタビュー当時のものです。

【絵の力、言葉の力】

佐伯 胖（青山学院大学教授）／高島肇久（㈱日本国際放送代表取締役社長）／武部恭枝（コミュニケーション戦略コンサルタント／国際会議同時通訳者）

【社会を見つめ直し、理念を描く】

野村雅一（総合研究大学院大学理事・副学長、国立民族学博物館名誉教授）／色平哲郎（JA長野厚生連・佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長）／諸富 徹（京大大学院経済学研究科教授）／大芝 亮（一橋大学大学院法学研究科教授）

【ひと、そして市民社会を育む】

滝田賢治（中央大学法学部教授）／田中弥生（独立行政法人大学評価・学位授与機構准教授）／川崎あや（特定非営利活動法人アクションポート横浜 理事）





現地でモン人とイキ場をする金先生(中央)

東北師範大学卒業。1982年、中国教育部大連外国語大学赴日予備校を経て、同年10月、政府派遣留学生として来日。1988年 広島大学大学院教育学研究科博士課程修了して帰国、教育部中央教育科学研究所(北京) 副教授。1995年4月より広島大学教育学部助教授。2003年4月より神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授。2011年4月より現職。教育学博士。比較教育学専攻。

著書に『東京大学』(湖南教育出版社、1992)、『国際教育縦横』(共著・人民教育出版社、1994)、『中国少数民族教育政策文献集』(大学教育出版、1998)、『二一世紀の社会と学校』(共著・協同出版、2000)、『義務教育投資国際比較』(共著・人民教育出版社、2003)、『先賢の志』に学ぶ—21世紀の教育を問う』(共著・ジャパン総研、2004)、『世界の学校』(共著・学事出版、2006)、『こんなに違う!世界の国語教科書』(共著・メディアファクトリー、2010)、『結婚のない国を歩く—中国西南のモン人の母系社会』(大学教育出版、2011)、『こんなに厳しい!世界の校則』(共著・メディアファクトリー、2011)、『東方女人国の教育—モン人の母系社会における伝統文化の行方』(大学教育出版、2011)、『教育と人間と社会』(編著・協同出版、2012)他論文多数。

『結婚のない国を歩く—中国西南のモン人の母系社会—』では、中国の少数民族で、“走婚(妻問い婚)”と“結婚”という婚姻形態が併存しているモン人の母系社会を紹介、『東方女人国の教育—モン人の母系社会における伝統文化の行方』では、モン人の「命名式」「成人式」「葬送儀礼」などの通過儀礼からみたモン人の「教育文化」、急速に進む近代化の中でモン人の伝統文化の伝承問題等を明らかにしている。このようなモン人の社会と文化に関する研究が、現代における家族のあり方、文化の伝承、異文化の共生、文明のあり方などについて考えるきっかけとなることを願う。



東京外国語大学フランス語学学科卒業後、東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。1980年にカリフォルニア大学バークレイ校大学院(言語学)修了、1983年にPh.D.取得。東洋文庫研究員、カリフォルニア大学講師、国立民族学博物館助教授を経て、1995年より同教授・副館長、2005-2008年人間文化研究機構理事、2008年より同民族文化研究部教授。2011年3月末をもって定年退職となり、同名誉教授。2011年4月から総合研究大学院大学理事・副学長。言語学者。専攻はチベット・ビルマ系諸語(特にチベット語とギャロン語)の歴史研究。

著書に『現代チベット語分類辞典』(共著・汲古書院、1990年)、『時間・ことば・認識』(編著・ひつじ書房、1999年)、『チベットの言語と文化—北村甫退官記念論文集—』(共編・冬樹社、1987年)、『インド=複合文化の構造』(共編・法蔵館書店、1993年)、『西藏(チベット)全誌』(青木文教著・共編校訂・芙蓉書房出版、2010年)など。編著書に下記の成果報告として『国立民族学博物館調査報告』にBon Studies 14巻、Gyalrong Studies 2巻がある。

代表者を務めた研究・プロジェクトとして、「チベット文化域におけるボン教文化の研究」(1996-1998)、「ボン教文化の総合的研究」(1999)、「シャンシュン語の再構とチベット文語形成に関する総合的研究」(1999-2001)、「チベット文化圏における言語基層の解明」(2004-2008)、「ギャロン系諸言語の緊急国際共同調査研究」(2008-2012)など。

研究は二つの柱からなる。一つはギャロン系諸語の記述並びに歴史研究、もう一つはボン教文化の研究である。ギャロン語はチベットビルマ語族の古層を代表する言語であり、同語族の祖型を再構成する上で必須であるが、種々の事情から信頼すべき記述資料が揃っていない。

もう一つのボン教研究は、チベットに中央集権国家が樹立された後、仏教を国家統一のイデオロギーとして採用したため、ボン教徒は中央チベットから駆逐されたことと関係がある。ボン教徒が逃げた先が実はギャロン地域だったのである。ボン教徒たちが話していたのはシャンシュン語という言語で、敦煌出土チベット文献の中に6つだけ資料があるが、まだ解読できていない。言語学的興味、他、チベット仏教の哲学・儀礼の随所にボン教からの影響が認められ、ボン教はチベット文化の基層をなしていること、日本における宗教事情との対比から、日本の修験道と比較しうると思われることなどから、双方とも狩猟採集文化を背景とする基層文化を色濃く反映していると考えられる。



慶應義塾大学経済学部卒業。三和銀行(現 三菱東京UFJ銀行)勤務後、米国コネチカット大学博士課程修了。専攻は、農業資源経済学。帰国後、環境コンサルタントとしてGEやGoldman-Sachsなど外資系企業を担当、テンプル大学経済学部助教授を経て2010年4月よりIGESに勤務。ガバナンスと能力グループ副ディレクターとしてバイオ燃料プロジェクト、環境CSR促進プロジェクトなどを経て、2011年4月より自然資源管理グループ副ディレクター。適応チームのリーダーとしてアジアの農業における気候変動適応策促進についての研究活動に関わる。

IGESでは、農村における地域適応効果を評価する指標の開発をインド、ネパール、バングラデシュで行うかたわら、2011年4月からは、東日本大震災の被災地復興に関する研究に関わり、自然災害や気候変動による変化に対する「回復力(レジリエンス)」強化についての研究を行っている。

各地域における歴史的な経験の積み重ねや知恵などは自然の変化に対応する合理的な対応の蓄積であり、気候変動適応策や災害対応を考える際、このような土地固有の文化に根差した知恵を大切にしないといけないと考えている。

○以下の申込み欄もしくはメールに必要事項を記載してお申込みください。申込み締切は、10月19日(金)です。申込者多数の場合には抽選となりますが、結果の如何に関わらずお申込みいただいた方全員へご連絡いたします。
 ※ご登録いただいた個人情報、当財団のみが取り扱い、本講演会の事務や当財団のイベントのご案内以外の目的には使用いたしません。

| | | | |
|---|-------|---|--|
| <input type="checkbox"/> ファックス 046-858-1210 | | <input type="checkbox"/> メール academia@kif.ac ※10月19日(金) 締切 | |
| フリガナ 氏名 | | | |
| 所属 | 部署 | | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話 | ファックス | | |
| メール | | | |
| <input type="checkbox"/> インタビュー集『知をめぐる対話』第1弾(500円)希望 <input type="checkbox"/> にチェックをご記入ください。 <small>※『知をめぐる対話vol.2』は、当日ご参加いただく方には差し上げます。</small> | | | |

インタビュー集『知をめぐる対話』第1弾 ～好評販売中～

湘南国際村学術研究センターでは、これまでさまざまな分野の方々に講師として来ていただきました。そうした方々を中心としたインタビューをまとめた冊子『知をめぐる対話』(2009年12月発行)を販売しております。ご希望の方は申込書(上記)の所定の欄にチェックしてください。代金は講演会当日に参加費とともにお支払いください。

『知をめぐる対話』 目次 ※所属・役職名はインタビュー当時のものです。

■私たちの世界

「国際政治も人と人のつながりで」 榊山紘一(東京大学名誉教授/印刷博物館館長)

「国際政治学と映画と私」 藤原帰一(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

「東アジア共同体構想の再考」 田中 均(元外務審議官)

■豊かに生きる

「今度の冬は薪も多めに準備しておかないと」 竹内恒夫(IGES上席研究アドバイザー/名古屋大学大学院専任教授)

「ゆっくりと変わる私たち」 池内 了(総合研究大学院大学葉山高等研究センター長)

「『名著』と『器』～知的で豊かな人生とは」 江藤裕之(長野県看護大学外国語講座准教授)

■女性と自立

「ギア・チェンジで乗り切れ！一育児と仕事の両立」 坂東真理子(昭和女子大学学長)

「無理なく、違和もなく」 山崎美貴子(神奈川県立保健福祉大学学長)

■アートの力

「ある美術館をめぐる物語」 建島 哲(国立国際美術館長)

「市民生活とつながるアートを」 北川フラム(株式会社アートフロントギャラリー代表取締役)

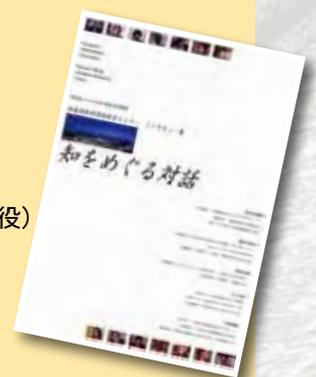
「わかるもの・かわらないもの」 山梨俊夫(神奈川県立近代美術館長)

■未来を描く

「人類の世界観を新しくしたい」 小平桂一(総合研究大学院大学学長)

「かながわの国際化を見つめて」 鈴木佑司(法政大学教授)

「時代の転換点に向き合うこと、未来を描くこと」 神野直彦(東京大学大学院経済学研究科教授)



湘南国際村センター(葉山町上山口1560-39) 交通案内

【バスをご利用の場合】

①逗子駅・新逗子駅発 湘南国際村行きのバス

JR逗子駅前1番乗り場より「湘南国際村センター前」行きバスに乗り、「湘南国際村センター前」下車。約30分、340円。

JR逗子駅発車後2~3分で、京急新逗子駅前1番バス乗り場に停車。

②京急汐入駅発 湘南国際村行きのバス

京急汐入駅前2番乗り場より「湘南国際村センター前」行きバスに乗り、「湘南国際村センター前」下車。約30分、370円。

【タクシーをご利用の場合】 JR逗子駅前タクシー乗り場より湘南国際村センターまで約15分、約2,800円。

【高速バスをご利用の場合】 横浜駅東口(Y-CAT)より湘南国際村センターまで約40分、900円。

【交通案内HP】 <http://www.shonan-village.co.jp/access.html>